



## 産業歯科保健部会について

安田恵理子（大阪歯科大学口腔衛生学講座（非常勤講師））

公益社団法人 日本産業衛生学会は、「産業衛生に関する学術の振興を、勤労者の職業起因性疾患の予防及び健康維持増進を図り、もってわが国の学術と社会の発展に寄与すること」を目的とし、1929年に設立された学会で、会員数8,426名（2023年3月1日）、2029年には創立100周年を迎えます。

産業保健に関わる多職種で構成され、産業医部会、産業保健看護部会、産業衛生技術部会、産業歯科保健部会の4つの部会があり、それぞれの活動を発信し、情報共有し、交流し、発展させていくことができる、まさに多職種連携の魅力あふれる学会です。

ここ近年は、働き方改革をベースに、コロナ感染の経験から大きく産業保健の考え方、取り組み方も、化学物質の自律管理やTHP指針改正など、変化が起こってきています。健康寿命延伸のためにも、健康増進といった観点からの予防の取り組みが重要ですが、歯・口腔の健康が全身の健康に影響を及ぼすという知見の積み重ねにより、一次予防・ポピュレーションアプローチとして、歯科の果たす役割は年々増してきています。

産業歯科保健部会は2007年に設立され、私は、前任の加藤元先生の後、2023年度より産業歯科保健部会長を拝命しました。歯科の予防のなかで、今まで手薄になっていた働く世代からの歯・口腔の予防の重要性を周知し、しっかりと取り組んでいくことを、次の世代にも繋げていけるよう、尽力してまいります。ここ近年は歯科医師、歯科衛生士など歯科関連職種だけでなく、産業医や保健師、看護師の入会者も増え、歯科保健への関心の高まりを感じています。

産業歯科保健部会としては、年に2回ある学会（日本産業衛生学会と全国協議会）において、時代に先んじてテーマを選定し、フォーラムや、研修会、教育講演等を企画し、学会発表も促し、その他、各地方会の産業歯科保健部会にも自律的に研修会等、活動をしていただき、特に地方での学会開催時には、実行委員として地域歯科医師会とも協働し、学会を盛り上げていただいております。

歯科関係者が研鑽できる場であることは勿論、歯科以外の職種が歯科について学びたいという要望に応え、両者が交流できるプラットフォームのような場としての活性化を目指しています。また産業歯科保健についての窓口としての役割を果たせるように、今年度よりHPのリニューアルを順次進めています。

是非、口腔衛生学会会員の先生方にも産業衛生学会に御参加いただいたり、先生方の知見を広くお示しいただいたり、歯科以外の講演や発表を聴講することで歯科としての課題を感じ取っていただいたり、御一緒に、産業歯科保健部会を盛り上げていただければと存じます。私も今年、日本口腔衛生学会専門医に合格しましたが、その視点を産業保健にも活かしていけると存じます。歯科としての力が集まることで、健康増進、予防において、歯科が当たり前重要な役割を果たしているのではと期待しています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



産業歯科保健部会